

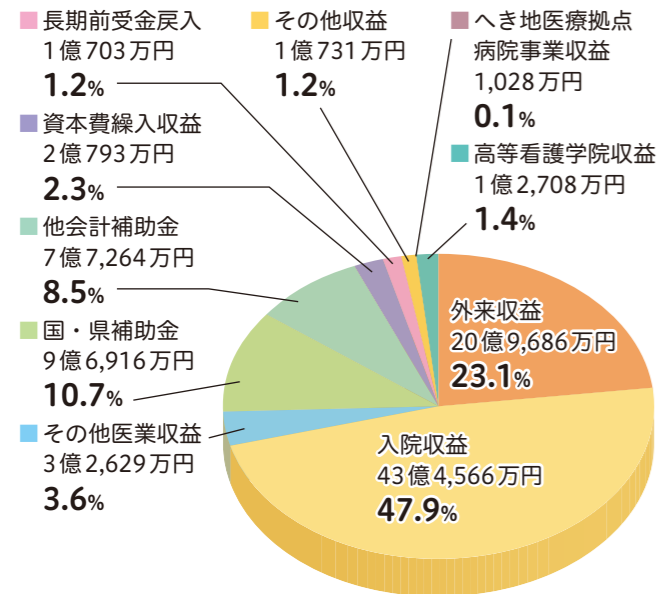


令和3年度小浜病院事業会計決算

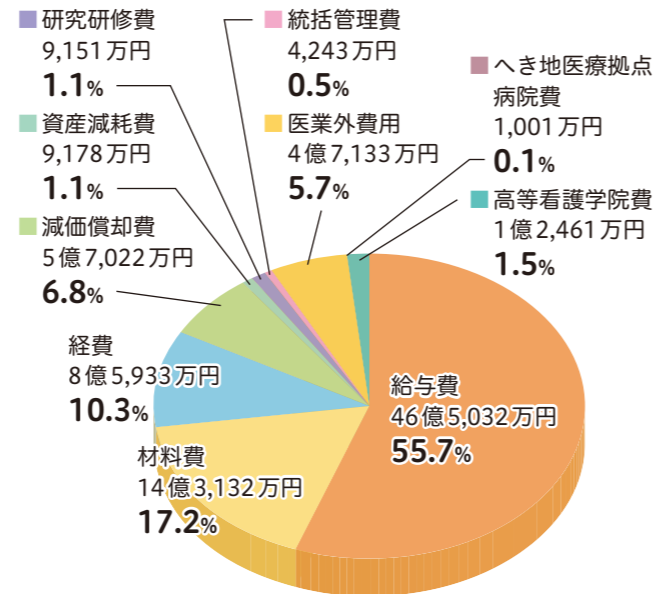
令和4年10月5日に開催された病院組合議会において、令和3年度決算が認定されました。

1 | 収益勘定

〈事業収益〉 90億7,024万円



〈事業費用〉 83億4,286万円



- 外来収益 外来医療収入
- 入院収益 入院医療収入
- その他医業収益 文書料、室料差額、健康診断、予防接種料等の収入
- 国・県補助金 国、県からの運営補助金収入
- 他会計補助金 構成市町からの運営負担金収入
- 資本費繰入収益 構成市町からの企業債(借入金)元金償還額に対する負担金収入
- 長期前受金戻入 償却資産取得に伴う補助金額からの減価償却額見合い分の収益化
- その他収益 財産使用料、施設利用料等の収入
- へき地医療拠点病院事業収益 へき地巡回診療、運営補助金収入
- 高等看護学院収益 学生授業料、構成市町運営負担金等の収入

- 給与費 職員の給料、手当、法定福利費、賞与引当金等の費用
- 材料費 薬品、診療材料、給食材料等の購入費用
- 経費 電気、上下水道、賃借、委託、修繕等の費用
- 減価償却費 償却資産の減価償却費用
- 資産減耗費 償却資産の除却費用
- 研究研修費 学会出張等の研究研修費用
- 統括管理費 病院組合事務局運営費用
- 医業外費用 借入金利子返済等の費用
- へき地医療拠点病院費 へき地巡回診療運営費用
- 高等看護学院費 高等看護学院運営費用

2 | 資本勘定

〈資本的収入〉 8億2,360万円

- 補助金 国、県からの資産購入補助金収入 2億9,418万円
- 企業債 施設整備並びに資産購入に対する企業債(借入金)収入 5億2,640万円
- 修学資金貸付金返還金 修学資金貸付辞退者返還金収入 262万円
- 市町負担金 構成市町からのリース資産支払額に対する負担金収入 40万円

〈資本的支出〉 14億635万円

- 建設改良費 施設整備、資産購入並びにリース資産支払費用 8億2,426万円
- 企業債償還金 企業債(借入金)元金償還費用 5億4,939万円
- 修学資金貸付金 修学資金貸付費用 3,270万円

公営企業の諸施設の整備、拡大などにもなう収支で以下のようなものがあります。

若狭地域唯一の総合病院として、良質な医療の提供、救急医療をはじめとした地域医療の確保、感染症医療体制整備、病病・病診連携を進め、引き続き医療と福祉の向上並びに収益改善に取り組みます。

iki iki いきいき

病院理念

地域住民の皆様とともに歩み、
愛され、信頼される病院

vol.31
令和5年2月発行



脳血管撮影チーム

特集

- 画像診断センターに血管撮影装置が導入されました
- 新任医師紹介
- 専門医にきく“脳血管撮影検査とは”
- 令和3年度小浜病院事業決算報告

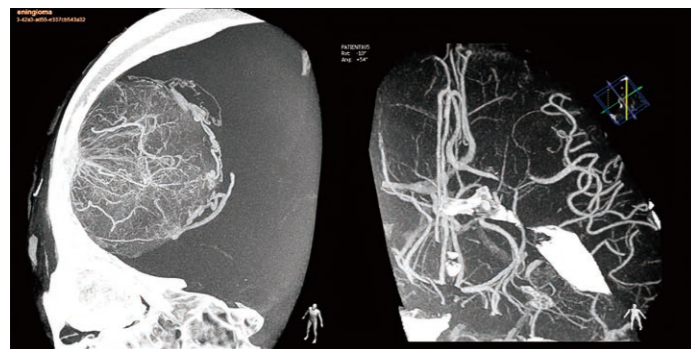
画像診断センター ～血管撮影装置が導入されました～

血管撮影装置は、造影剤を注入し、X線を照射することで血管の病変を発見し、治療を行うことができます。

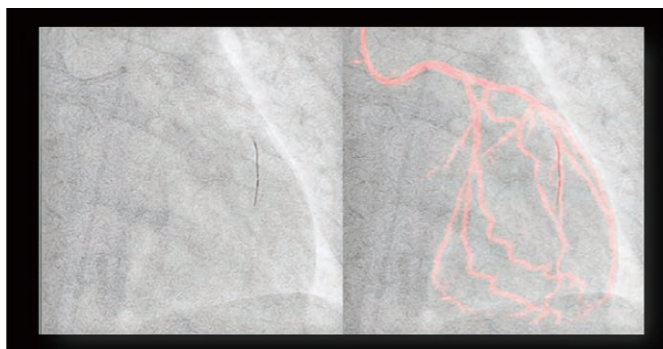
当院では、新しく血管造影X線診断装置を更新し、脳神経外科領域や循環器内科領域などの多岐にわたる部位においてカテーテル検査や血管内治療を行っております。

血管内治療とは外科的な手術とは異なり、体外からの操作で、病巣を治療することができます。新しい設備により正確な診断や体への負担が少ない治療が可能となりました。

また、当院が導入した血管造影X線診断装置には多彩な治療支援機能や被ばく低減機能が搭載されているため、より安全かつ高精度な検査・治療を受けていただけます。

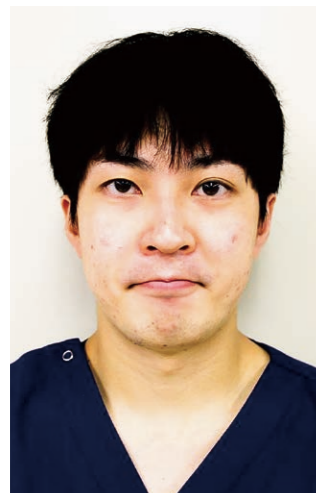


細かい頭の血管を低被ばくで撮影することが可能です。



心臓カテーテルも含め全身の血管の検査撮影が可能です。

新入職員紹介



内科 い がわ あき ひさ 井川 彰久 医師

皆様はじめまして。京都から参りました井川彰久と申します。まだ医師3年目ではございますが、専門は循環器内科であり、特に狭心症や心筋梗塞、心臓弁膜症といった疾患のカテーテル治療に興味を持って診療に当たっております。私は初期研修から専ら大都會の総合病院で勤務してきましたが、当院に赴任してからは地方の総合病院ならではの魅力や良さを感じる日々です。今後とも精進いたしますので何卒よろしくお願い申し上げます。

脳神経外科医のページ

専門医に聞く!



脳血管撮影検査とは

あらい ひろし
脳神経外科医 荒井 大志



カテーテルと呼ばれる細い管を、肘または足の付け根の動脈から挿入し頭頸部血管の目的部位まで進めます。造影剤を注入すると脳の血管が描出され、その画像を元に詳細な診断や治療を行います。

当院では血管撮影装置を昨年更新し、より安全で安心な検査、治療を行うことができるようになりました。

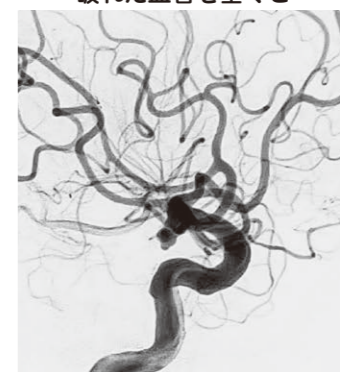
●●● 脳血管撮影装置で治療する代表的な疾患 ●●●

1

のう どう みやくりゅう 脳動脈瘤

脳の動脈のこぶ(動脈瘤)が破れるとくも膜下出血を発症します。緊急で再破裂を予防する治療が必要であり、カテーテルから動脈瘤内にプラチナ製のコイルを挿入し破れた部位を閉塞させます。また脳ドック等で偶然見つかった場合は、破裂する前にコイル塞栓術を行うこともあります。

破れた血管を塞ぐと



再破裂が予防できる



コイル挿入後

2

のう こう そく 脳梗塞

脳の太い血管が詰まる(閉塞する)と脳梗塞を起こします。閉塞した血管の場所に依りて意識障害、言語障害、麻痺などの重篤な症状が出ます。近年詰まった血栓を除去できる特殊な機器が進歩し、発症早期にカテーテル内から展開することで閉塞血管を再開通させ、後遺症を軽減することができますようになってきています。

血栓を除去すると



血流が回復します



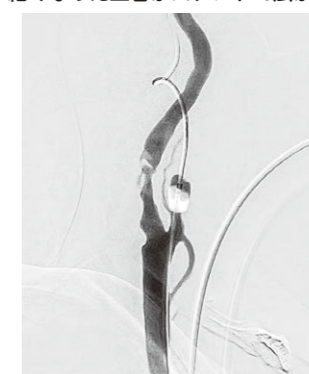
血栓除去後

3

けい どう みやくしつ かん 頸動脈疾患

主に動脈硬化が原因で、首の血管が徐々に細くなる頸動脈狭窄症という病気があります。狭窄が強いほど脳梗塞を生じやすくなります。カテーテル内からステントと呼ばれる金属製の網状の筒を留置することで首の血管を広げ、脳梗塞発症を予防することができます。たとえ無症状であっても80%以上狭窄した場合は治療する必要があると言われています。

細くなった血管がステントで広がり



血流が回復した



ステント留置後

脳血管撮影検査で何らかの合併症が起こる確率は0.1-1%程度といわれており、治療となるとさらに高くなります。検査・治療の必要性と、治療にともなう危険性について、本人・ご家族への十分な説明と同意のもとに行っています。